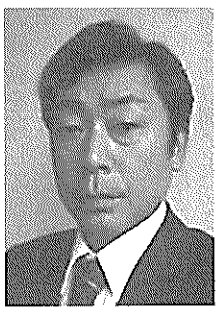
旭P連だより
旭川市PTA連合会

【事務局】旭川市6条5丁目 日章小学校3階
TEL 23－2916番
FAX 23－2917番
【発行責任者】川村寿裕

「長屋づくり」をとおして



旭川市PTA連合会会長
川村寿裕

平成二十年三月二十日。旭川千代ヶ岡中学校の閉校式典が執りなく行われた。言葉を詰まらせながら挨拶を述べた前田ＰＴＡ会長からは苦渋の選択がうかがえた。

列席をされていた地域の方々、同窓生の方々が涙ながらに校歌を歌っている姿をみて、学校の役割を改めて感じさせられた。学校、地域、家庭で子どもたちを育てていくと叫ばれているこの時代に、模範となる千代ヶ岡中学校が閉校となったのは何ともいえない気持ちで一杯であるが、会員の皆さんのどれくらいの人がこの閉校のことを知っているのでしょうか？昨年廃校になった学校、存続か閉校か協議されている学校？

旭川市ＰＴＡ連合会は小中学校の児童・生徒の保護者、教員から構成されています。

義務教育をうける子どもたちには、平等に教育をうける権利があります。

それぞれの学校だけではなく、となりの学校、そのとなりの学校というように、旭川市全体のことを考え、同じ環境を創り上げ、向上していく役割が旭川市ＰＴＡ連合会にはあると考え、本年「長屋づくり」を始めました。新しいことを始める時何かを変えようとする時にはプラスとマイナスが発生しますが、問題意識を持ち、共有し、議論を重ねることが結果的にプラスの方向に結びつくと考えます。そういった意味からも本年は、各ブロック長＝八名の常任理事の皆様方には議論と実践に大きな時間を割いて頂き、「長屋づくり」を率先して行なって頂いたことに、感謝申し上げるとともに、今後長屋がそれぞれのブロックで拡がっていくことを願っております。

ことわざに「賢人は歴史に学び、愚人は体験して学ぶ」とあります。親が育っていないと言われる昨今、「家庭の力」を向上させるために、そして、二四、〇〇〇名の会員から頼られ、必要とされる旭川市ＰＴＡ連合会になっていくように、今後も「長屋づくり」を通した有意義な体験の機会を会員の皆様とともに創り上げたいと考えます。

最後になりますが、本年で退任される重山事務局長には、公私にわたって子どもたちに関して、熱い想いを語り続けて頂いた事に、心から感謝を申し上げ、その気持ちを引き継いで参ります。皆さま、一年間ご苦労様でした。そして、今日からまたともに頑張りましょう。

旭川市ＰＴＡ研究大会

平成十九年度のＰＴＡ研究大会は、主管地区・ＰＴＡとして神楽ブロックＰＴＡ及び西神楽小学校ＰＴＡのきめ細かな運営のもと、緑が丘中学校を会場として、六五〇名を超える会員の皆様にご参加いただき盛会裡に終了させていただきましたこと、紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

本研究会では、研究テーマ『子どもたちとともに夢をもち、夢を追いかける心豊かなＰＴＡを目指そう』と設定し、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応できる大人として、子どもたちとともに何を求め、子どもたちに何を教えていくのか、ＰＴＡのあり方を探る中で、家庭・学校・地域社会での活動を通して考えていくことを目指しました。

各分科会では、上記テーマに基づき、ＰＴＡとしての重要な話題を「組織・運営」「家庭教育」「学校教育」など十一部会に設定しました。八つの部会では話題提供者・助言者として市内各小中学校の校長先生、北海道ＰＴＡ連合会会長にご提言をいただきました。また、三つの部会では、講師として日本アイススレッジ協会理事長の中北浩仁様、北海道文教大学講師手島哲子様、北方建築総合研究所科長松村博文様による貴重なご講演をいただきました。各分科会とも、小グループに分かれての意見交流があり、また司会者の努力・工夫もあり会員相互の活発な話し合いが行われ、有意義な分科会を進めることができました。

部会終了後、参加者の方々から、他の方の考えが聞けてよかったとか、自分たちが知らなかったことに気づかせていただいたなどの感想が出されていました。

なお、具体的な話し合いの様子やまとめは、『第四十八回旭川市ＰＴＡ研究大会集録』にまとめられておりますので、参考にしていただければ幸いです。

母親研修会を終えて

踊場　寿佐

平成十九年度母親研修会はＰ連役員また多くの母親委員のご協力を賜り、そしてたくさんの単Ｐ会員の参加をいただき、無事終了することができました。心より感謝いたします。この母親委員会の存在が、あまり知られていない状況に皆戸惑いながらも、運営委員の皆様には、単Ｐでの経験をもとに、知を結集し素晴らしい研修会となりました。

参加者の減少を打破すべく、新しい試みにチャレンジする勇気ある委員の皆様と一緒に運営に関われました事は大変大きな経験となりました。

しかし、以後母親委員会の周知徹底は続けていかなければならない課題であると思われます。この母親研修会が同じ時代に生きる母として、手を取り合い連携し、心かよわせ、共に成長していける会となります事を心から祈念申し上げます。

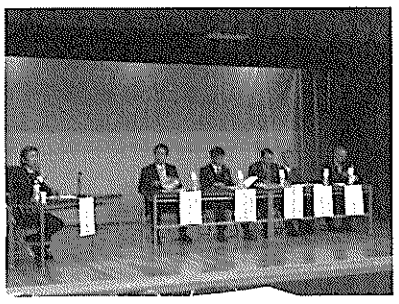
子ども安全・あんしんフォーラムについて

生活部担当副会長　長谷川　力也

本年、川村会長の活動基本方針並びに活動の重点事項にそって、真下部長ひきいる生活部が協議会の立ち上げ・全校へのアンケート調査・研究大会での部会の開催・フォーラム開催等の活動を進めて参りました。

「子どもの安全・あんしん」のテーマは、思ったよりも幅広い範囲が対象となり、テーマをしぼることからスタートし最終的には、子ども達の通学路における事件・事故にしぼられ、まず各小中学校のＰＴＡがこれらに対してどのような活動をしているのかアンケート調査をさせていただきました。それをとりまとめ分析し、各校へそれをフィードバックすることにより、すばらしい活動例や地域との連携例、さらには他団体との協力体制等の情報共有により、それぞれの学校が今後の子ども達の事件・事故防止活動の参考にしていただければと考えました。

また、その結果を踏まえ、子どもの安全・あんしん確保には行政・地域・ＰＴＡの連携の必要性が問われ、その三者の方々やその他の関係団体の方に深いご理解をいただき、子どもの安全・あんしんをテーマに基調講演・パネルディスカッション等を中心にフォーラムを開催させていただきました。参加していただいた各校の代表の方々はどのように受け止められたか、気になるところではありますが、主催側の所感としては、それぞれの団体が、それぞれの立場や考え方で次代を担う子ども達を日頃から守っていただいていることまたそこには、さまざま問題点があることなど、あらためて実感させられました。それと同時に、今後、参加していただいた団体が一体となって活動を起こす事が出来るならば、旭川の小中学校に通うすべての生徒たちが安全に、そして安心して学ぶ事の出来る「セイフティな街あさひかわ」が誕生すると確信いたしました。



これらの気づきは、我々ＰＴＡにとっても貴重なものであり、子どもたちを守っていくためのプロセスや行動への大きなヒントになったと思っております。最後になりますが、本年度の我々の集大成としてのフォーラムにすることが出来た事に対し、改めて関係各位の皆様にこの書面をかりて御礼を申し上げると共に、一年間一生懸命活動していただきました生活部のメンバー全員に敬意を表し、報告とさせていただきます。

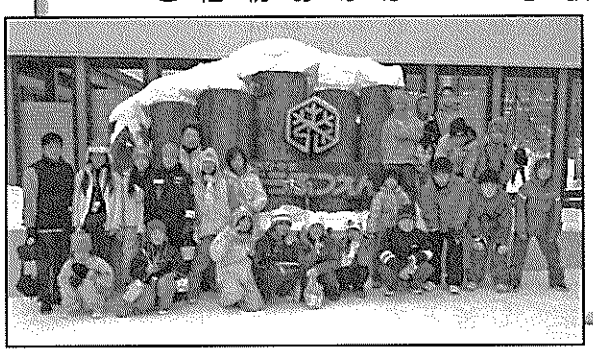
旭川・都城 児童生徒国内交流会について

事業部担当副会長　片岡　宏文

第二十一回旭川・都城児童生徒国内交流会を無事事故もなく終え、ホッとしております。

今年度の国内交流は都城市の参加者が十名、旭川市の参加者が九名、総数十九名で行われました。夏季交流（平成十九年七月二十七日～八月一日、五泊六日）では旭川市から都城市へ訪問を致しました。参加した子供達は、北海道とは違った夏を過ごし、また文化の違いも肌で感じ一回り大きく成長したように感じます。

冬季交流（平成二十年一月三日～七日、四泊五日）では、都城市から旭川へ来旭して頂き、都城市とは違う冬を体験して頂きました。想像はしていましたが初めて見る雪、空港に着くなり触り『つめたーい』『寒ーい』と言ってはしゃいでいるのを見ているとホストファミリーの方々、受入側の人達もなぜかうれしい気持ちになっていました。参加した子供達にはスキーや氷像作り、深雪での徒競争やゴム滑りを体験して貰いました。都城市から参加した子供達には良い思い出になったと思います。今年度で二十一回の国内交流事業になりますがこの事業の認知度を調査させて頂いたところ『知らなかった』と言われる方が多かったです。生まれた場所が違う、気候が違う、文化が違う地域の方々とのふれあいを多くの子供達に体験して欲しいと思います。体験をする事により今までとは違う自分を見つけられるのではないかと思います。本年度も本事業が無事終了出来たのはご参加いただいた児童生徒、ご家族の方々事業部部長を初め部員の方々、お手伝い頂いた役員の方のご協力の賜物だと思っております。この場をお借りし感謝いたします。ありがとうございました。



旭川市ＰＴＡ連合会における「ブロック活動」について

「旭川市ＰＴＡ連合会」の組織は、地域ごとに8つのブロックに分かれて活動がなされています。今回もそれぞれのブロックにおいてどのような活動がなされているか紹介させていただきます。

新永ブロック

【ブロック長】真下仁志（永山西小PTA会長）
●東五条小学校●新富小学校●正和小学校●永山小学校●永山南小学校●永山西小学校●永山東小学校●明星中学校●永山中学校●永山西中学校

【新永ブロック役員研修交流会】

新永ブロックは、十一月十七日（土）花月会館を会場に新永地区十校より百五名の参加をいただき教育講演会を実施しました。鷹栖町在住でフルート奏者の田尻淳子さんに「海外でのフルート演奏活動をとおして」と言うテーマで講演をしていただきました。

小学校でのフルートとの出会いから、ドイツでの六年間にわたる音楽留学でのエピソードを中心に、フルートの生演奏を交えながらの講演でした。ドイツ留学での話しの中では、日常の生活での日本との違い（特に、食の問題やエコに関して）についてスーパーでの買い物やルームシェアでの経験を通して、とまどいや感心させられた事をていねいに説明いただきました。

参加者からは「ゆったりとお話が聞けた感じでした。途中の演奏も素敵でした」「好きだという感性が、自分の道を切り開く大切さを感じました」「自分の知らない暮らしぶりや、日本でも取り入れたら良いと思うことも聞けて良かったです」などの感想をいただきました。

神楽ブロック

【ブロック長】重山雅彦（西神楽小PTA会長）
●神楽小学校●神楽岡小学校●緑新小学校●緑が丘小学校●西神楽小学校●聖和小学校●神楽中学校●緑が丘中学校●西神楽中学校●千代ヶ岡小中学校

【神楽ブロック会議並びに懇親会】

六月二十八日（木）「イコフ」において、神楽地区十二校、七十二名の参加による、ブロック会議並びに懇親会を実施しました。

会議では、本年度の活動内容の確認と各ＰＴＡの活動状況を紹介し合いました。その後の懇親会では、ゲームを交えながら互いの親交を深め合いました。

【神楽ブロック教育講演会】

十月十六日（火）、西神楽小学校において、一〇九名の参加による、教育講演会を開催しました。講師は、自然農法国際研究開発センター北海道地区普及所所長・北海道ＥＭ普及協会理事の萩原俊昭氏を招いて、『親子で考える身近な環境』という演題でご講演をしていただきました。

講演では、自然環境を守るためにＥＭ（有用微生物群）の具体的な活用例（家庭生ゴミの処理法・家庭菜園でのＥＭ堆肥及びＥＭボカシ等々）について豊富な実践資料をもとにご紹介していただきました。馴染みのあまりないＥＭについて、実物のＥＭボカシをさわったり取り組んでいる様子の映像を見たりすることで、より深い理解を示すことができました。

西部ブロック

【ブロック長】三輪一典（大有小PTA会長）
●高台小学校●向陵小学校●大町小学校●北光小学校●大有小学校●近文小学校●緑山小中学校●江丹別小中学校●附属旭川小学校●春光台中学校●北星中学校●北門中学校●附属旭川中学校●旭川盲学校●旭川聾学校

西部ブロックは、七月十四日（土）にブロック会議・研修会に併せて懇親会をもちました。今年度は大有小学校が主管校であり、校区のベルクラシック旭川を会場に、西部ブロック十三校、一〇二名の参加を得て盛会裡に終了することができました。

また、ブロック会議においては、今年度の年間行事計画、西部ブロック理事及び事務局割り当てを協議し九月二日に開催される市Ｐ連研究大会の参加協力について呼びかけました。

さらに、研修会においては、市Ｐ連川村会長にも御出席いただき、日常なかなか体験できない音楽鑑賞を次のとおり実施しました。演奏は、市内で活躍中の「旭川ミューズサキソフォンカルテット」にお願いし、会場いっぱいに響き渡る素晴らしい生の演奏に参加者全員が魅了され、感動的なひとときを過ごすことができました。

♪演　奏　曲　目♪

1. リトルネグロ・・・・・・・・ドビュッシー
2. メヌエット　・・・・・・・・ボッケリーニ
3. カフェ～1930　・・・・・・・ピアソラ
4. 日本の歌　・・・・・・・・・真島　俊夫
5. ゴスペルメドレー・・・・・・星田　隆俊
6. 最初から今まで・・・・・・・ユ、ヘンドリックス
7. 青春の輝き　・・・・・・・・カーペンターズ
8. プリーズ Mr. ポストマン・・カーペンターズ
9. ピンクパンサー・・・・・・・マンシーニ
10. グレンミラーメドレー　・小山ノ森弘

このような研修会の余韻を残しながら後半は、懇親会を実施しました。各校の特色あるＰＴＡ活動を報告し合い、和やかな中で、会員相互の親睦と交流を深めることができました。

北部ブロック

【ブロック長】田尻重敏（六合中PTA会長）
●近文第一小学校●近文第二小学校●北鎮小学校●春光小学校●天広小学校●天広北小学校●豊岡小学校●豊岡中学校●広陵中学校●六合中学校●忠北中学校

北部ブロックでは、フリーアナウンサーで料理人でもある高橋千鶴子様をお迎えし、六合中体育館で北部十一校の保護者と教職員、そして地域内外の住民の約百二十名の参加で教育講演会を実施しました。料理の目的（何をつくり、誰とどのように食べるか）心身共に健康であることと深い食の関わりについてなど、ホワイトボードを用いての食育の講義はわかりやすく、日ごろの食生活を見直すいい機会となりました。また、日本の食文化と食の伝統の継承、手作りの家庭料理とコミュニケーションの関係など、これからは本物の味とパワーを追求していくことが大切であると力説していました。最後に、「皆さん、毎朝、味噌汁一杯を飲むようにしましょう」でしめくくり、講演を終了しました。

南部ブロック

【ブロック長】吉川達也（東光中PTA会長）
●啓明小学校●千代田小学校●共栄小学校●東栄小学校●旭川第二小学校●旭川第三小学校●東光小学校●東陵中学校●東明中学校●東光中学校●旭川第二中学校

平成十九年十月九日（火）午後七時より東光中学校体育館にて北海道教育大学教授中西信行氏を招き二三〇名の参加者で教育講演会を行いました。

演題は『ことばの魅力　？日本語を豊かに表現するために？』と題し、若者語や流行語が入り乱れている奇妙な現象や日本語の魅力、日本人独自の言語文化について講演をして頂きました。言葉は時代の流れと共に変化をしている、家族同士の言葉が通じない状況になってきている等、現代社会における言葉の表現力不足についておもしろおかしくお話して頂きました。

一時間三十分と言う講演時間もアッという間に過ぎてしまい、参加者の方々から『とてもいい講演だった』『もっと話を聞いてみたい』等お言葉を頂きました。

講演会開催にあたりご協力頂きました南ブロックのＰＴＡの皆様には心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

東部ブロック

【ブロック長】木村芙美子（旭川小PTA会長）
●愛宕小学校●愛宕東小学校●旭川小学校●旭川第五小学校●旭川第一小学校●愛宕中学校●旭川中学校

東部ブロックでは、平成十九年十月九日（火）十八時三十分より東旭川公民館にて講師に築山尚明氏をお招きし教育講演会を実施いたしました。築山氏は市内各公民館で講座講師をされており、日本お笑い学会の会員でもあるということで、会場には一二九名の多くの参加者が集まりました。

講演は「オヤ？おや？親！」と題し、社会の変化にともない変わってきた最近の学校や家庭教育にスポットをあて、時代が変化しても変わることのない母親や父親そして教師としてのあるべき姿について多くのご示唆をいただきました。築山先生のユーモアを交えての話しぶりにあっという間に過ぎ去った一時間半でした。

講演会開催にご協力いただきました東ブロックのＰＴＡの皆様、本当にありがとうございました。

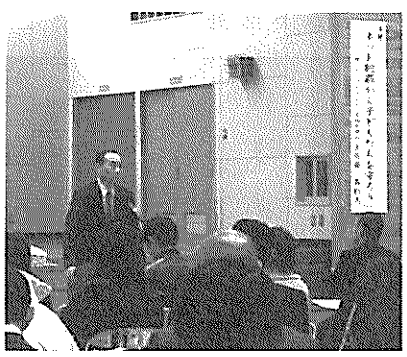
中央ブロック

【ブロック長】平林　靖（東明小PTA会長）
●青雲小学校●新町小学校●日章小学校●知新小学校●朝日小学校●豊岡中学校●常盤中学校●北鎮中学校●光陽中学校

近年のインターネットの発達には目を見張るものがあります。それとともに日々増え続けるネット犯罪、そしてそれに巻き込まれる子供たちについての報道を頻繁に耳にするようになりました。

中央ブロックでは、判断力の不十分な子どもをインターネットのトラブルから守ることを目的に、昨年十一月三十日（金）青雲小学校体育館において「ネット犯罪から子供たちを守ろう」と題し、教育講演会を開催しました。

講師に五反田英利氏（旭川ケーブルテレビ常務取締役業務本部長）をお招きし、子供たちを取り巻くネット犯罪の現状と被害に遭わないための注意事項など、実例を交えながら分かりやすく解説していただきました。ネット被害の防止について最も大切なことは、親子の対話により「インターネット利用時の家庭内ルールを作成する」そして我々保護者もフィルタリングソフトなど「安全なインターネット利用のための知識をしっかり身につける」必要があるとの内容でした。



今回の講演会は「e－ネットキャラバン」http://www.fmmc.or.jp/e-netcaravan/のご協力をいただきました。

神居ブロック

【ブロック長】栗林一裕（神居東中PTA会長）
●忠和小学校●台場小学校●神居小学校●豊沢小学校●神居東小学校●西神小中学校●忠和中学校●神居中学校●神居東中学校

今年度は神居東中学校が当番校として、ブロック内各小中学校ＰＴＡ役員相互の交流を深めることを第一に企画しました。

例年、各方面の講師をお呼びしての講演会、その後引き続き懇親会という流れで行っていましたが、堅苦しいことは一切取りやめた内容としました。

当日の参加者は約七十人。ボーリング大会では会場を貸し切り、レーン毎に参加者をランダムで割り振りました。

普段はほとんど交流のない他校役員と一緒に汗を流し、そして焼き肉会場では煙が充満する中、冷たいビール片手に焼き肉を食べ、楽しい一時を過ごしました。

また、焼き肉会場ではボーリング大会の個人表彰（男女別）及び団体表彰を行う等、大いに盛り上がりの中無事終了することができました。

編集後記

一年間の活動を通じ、次代を担う子どもを育てている親として、どのような時でも社会の中で生きているひとりの大人としての恥ずかしくない行動をとり、またその責任を放棄する事のない姿を見せてゆくことが大切なのだと感じました。

最後に、編集・発行にあたり、ご協力をいただきました関係各方面の方々に総務部一同心からお礼申し上げます。